

作成者：吉永 明弘

**テーマ：** 環境問題に倫理学の視点から取り組む

**関係の深いコース：** 人間文化コース、ローカル・サステナビリティコース

### 1. このテーマを学ぶために

今日の環境問題は社会のシステムの変革なしには解決しえない問題です。この社会をどう変えていくべきかを考えるのが環境倫理学です。倫理学というと、個人の心がけを求めるものと思われるがちですが、心がけだけでなく、社会のあるべき姿を考えるのが倫理学です。したがって、倫理学や環境倫理学をきちんと学ぶためには、人文学、社会科学、自然科学の基礎的な知識が必要になります。人間環境学部には、これらの授業がそろっていますので、さまざまな授業を履修することを望みます。

また、学生時代は何よりも読書が大切です。すでに高校まででたくさんの本を読んでいる人もいます。そういう人に出会うと、自分はもう立ち遅れているのではないか、と思ってしまうかもしれません。私もそうでした。しかし大学時代は一番読書の時間がとれるので、幅広い分野の本をたくさん読むことを勧めます。「年間 100 冊読む」といった量的目標をたてるのもよいでしょう。まずは量をこなすことが必要です。環境問題を考えるにはたくさんの知識が必要です。読書をすることでさまざまな知識を得ることができます。

環境倫理学は哲学の一部でもあります。哲学は「言葉」にこだわり、掘り下げて検討します。環境問題の「環境」とは何か、自然破壊の「自然」とは何か、「持続可能な開発」の「持続可能」とは何か、これらは自明ではなく、立ち入った検討が必要となります。議論をするときに、お互いが想定している「環境」「自然」「持続可能」の意味が違っていたら、議論がかみ合わないものになります。言葉の意味を明確にすることは、環境をめぐる社会的合意形成のための基礎的な作業と言えるでしょう。

まとめると、(1) 環境問題に倫理学の視点から取り組むということは、社会の変革を目指すことであり、そのためにはさまざまな知識を得ることが必要であり、(2) 哲学の観点からは、言葉にこだわることによって、環境をめぐる社会的合意形成の基礎的作業ができる、ということになります。

### 2. テーマに関連した推奨科目

上記のテーマに直接かかわるのは「環境倫理学Ⅰ・Ⅱ」「応用倫理学」ですが、それだけでなく、以下の科目もとるべきだということが、上記の説明でお分かりいただけたかと思います。「西欧近代批判の思想」「現代思想と人間Ⅰ・Ⅱ」「科学技術社会論」「地球科学史Ⅰ・Ⅱ」「日本環境史論Ⅰ・Ⅱ」「ヨーロッパ環境史論Ⅰ・Ⅱ」「食と農の環境学Ⅰ-Ⅲ」「地域経済論Ⅰ・Ⅱ」「環境人類学Ⅰ-Ⅲ」「環境社会論Ⅰ-Ⅲ」「環境経済論Ⅰ・Ⅱ」「地方自治論」「NPO・ボランティア論」「自治体環境政策論Ⅰ・Ⅱ」「都市環境論Ⅰ・Ⅱ」「気候変動論Ⅰ・Ⅱ」「自然環境政策論Ⅰ・Ⅱ」。